

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400275
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム 竹の園
所在地	愛媛県西予市野村町野村12号106番地
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設近くの土手は利用者や近隣者の散歩コースになっており、田畑の緑にも囲まれた恵まれた環境です。外出を楽しみにしている利用者のため、計画的に食事会やドライブをしています。当グループホームは、医療機関を中心とした多くの介護施設の一部なので、利用者にとって多くの方との出会い、娯楽、リハビリ、教養の機会を持っています。音楽療法などはデイサービスで楽しみ、グループホーム間では相互のレクリエーションで人間関係を作ります。看取り契約者がおられる時には、訪問看護のサービス提供で、介護職員が安心でき、利用者にとっても最後まで穏やかに過ごせる場所となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園に囲まれた事業所の窓からは、旧野村町の見慣れた風景や山々の季節の移り変わりを眺めることができる。事業所の近くには、保育所や児童館、派出所、野村勤労福祉センターなどがあり、静かな環境の中にも生活するには最適の立地である。母体法人は医療機関のほかにも複数の福祉事業所を運営しており、特にデイサービスの広いフロアには各事業所の利用者が集まり、踊りや歌のボランティアの訪問があったり音楽療法を取り入れたりするなど、交流をしながら楽しみのある生活を提供している。管理者は「一人ひとりの思いを大切に笑顔と優しさで寄り添い、できないことにそっと手をさしのべます。」という理念に沿った統一したケアに努めており、職員間のコミュニケーションを大切にして職員が長く勤められるよう働きやすい環境づくりに力を入れて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 竹の園

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)
氏名 小玉 弘美

評価完了日 26年7月14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎日の申し送りや勉強会などで、理念に触れ、意見の統一を図りながら実践につなげている。	
			(外部評価) 理念は開設時に職員全員で話し合い作成しており、玄関やリビングに掲示して職員間で共有している。利用者との日々の関わりの中で疑問が生じた場合には、理念を基にして勉強会にその疑問を取り上げて職員間で話し合いをしている。また、理念の振り返りを行い、「地域とのつながりを大切にする」という項目を追加するなど見直しを行い、理念に沿ってケアが実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 周囲の地域の方とは、何時も挨拶を欠かさず会話などを行っています。近隣の幼稚園、中学校との交流の機会があります。	
			(外部評価) 散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、野菜のおすそ分けを届けてもらうなど、相互の交流をしている。町内会に加入していないが、市の広報誌が配布され地域行事を把握しお祭りなどに参加している。また、地区の役員さんから奉仕作業や敬老会などへの参加の呼びかけがあり、参加して交流を広めている。中学生の体験学習を受け入れたり、踊りや歌のボランティアの訪問がある。また、近くの幼稚園児の訪問があり、利用者は楽しみにしている。事業所主催の納涼祭を例年開催していたが、参加者が少ないため今年中止となっており、地域住民に事業所に足を運んでもらう理解を得られるような取組みも検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方から認知症の相談を受けている。人材育成のために、実習生やボランティアの受け入れを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 日頃より、学識経験者や地域の有志の方や消防署からも貴重なアドバイス、ご意見を頂き、施設の方向を見直す機会にしています。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、近隣住民、小学校長、消防署長、他の事業所の職員などの参加を得て、法人内の他の事業所と合同で開催している。会議では事業所の報告を行うほか、家族の参加が得られ利用者の様子も分かってもらえるよう、外出行事などと一緒に開催する工夫をしている。また、新しく交番の署員が参加を予定しており、多角的な意見を聞きサービスに反映できることも検討している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 地域包括センター、市役所の生活福祉課との情報交換を行っている。今後とも共同関係ができるように、担当者と会う機会を増やしている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は毎回運営推進会議に参加してもらい、事業所の様子を知ってもらうほか、熱中症や誤嚥、インフルエンザなどの感染症など情報やアドバイスをもらっている。また、介護認定の更新時や質問などがある場合は、市の窓口に出向き相談する良好な関係を築いている。また、地域包括支援センター主催の勉強会に参加したり、入所の問い合わせがあるなど、協力関係ができています。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体的拘束は全く行っていません。そのような環境は作らないようにして、職員が人権侵害の意味を把握し、安全確保に努めています。</p> <p>(外部評価) 職員は身体拘束等の外部研修に参加しており、各ユニットに研修報告を回覧するなど職員全員で情報共有して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出しようとする利用者には職員が付き添い散歩をするなど、見守りながら気分転換してもらっている。ベッドから転倒の恐れのある利用者には、安全面を考え家族の同意を得てベッド柵を使用している。利用者の状況に応じて、止むを得ずユニットの入口を施錠することもある。</p>	「利用者の人権を守る」という基本を認識し、職員全員で身体拘束が利用者にも与える弊害などを話し合い、安全を確保しつつも自由な暮らしを支援する工夫や取組みを行うことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の人権を大切にする事は、職員として当然のことである。虐待につながるような事でも、早く気づき、防止出来るように努め、研修会などに参加し、意識を高めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、知識所得に努力している。現在は制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上、入居されている。契約内容は分かりやすい説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。出された意見はすぐに話し合いを持ち反映させている。	
			(外部評価) 毎月家族に事業所を訪問して直接利用料の支払いをしてもらっており、職員から声をかけ意見や要望を聞くよう努めている。年2回、家族に外出行事に一緒に参加してもらい、利用者や家族から意見を聞く機会として役立てている。また、玄関には意見箱を設置し、苦情申し立て連絡先を掲示するなど、意見を出しやすい工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1の職員会、主任会、幹部会などの会議があり、その会議内容は職員に伝え、個人的にも施設長との直接面談があり、意見を述べる事ができます。	
			(外部評価) 月1回、法人全体の会議を実施した後に、事業所で職員会を実施している。職員会では利用者の日々のケアを話し合い、職員は行事などのアイデアや意見を施設長に伝えることができる。職員から出された意見には事業所で迅速に対応している。また、事業所に対応できない場合は法人の幹部会に報告し対応している。年1回、施設長は職員との個別面談を設けて相談できる機会を作っているほか、管理者は職員が気軽に相談できる関係づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格所得には代表者が意欲的に努めている。資格手当、精勤手当、昇給があります。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 県GH研修会、認知症対応の研修会などに積極的に参加しています。昨年度も県GHより、表彰を受けています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県、南予地区、市GHに連絡会があり、情報交換をしながら、質の向上に取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の生活リズム、生活習慣をよく把握し、何を必要としているかを知ろうとしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面接時に状況を把握し、家族が何を望んでいるのか、家族の気持ちになって受け止めようとしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い、状況を把握し、改善に向けて家族が納得し、満足できる支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごし、学び支え合う関係であり、人生の先輩として話しを聞く、教えて頂く事を心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との交流の場所として、お花見、納涼祭などを行っている。面会時には、生活の様子を話す機会を持ち、一緒になって利用者を支えていく為に同じ思いで支援していることを伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) スーパー、理美容室、ドライブ、地域の行事などに参加し、継続した支援をしている。 (外部評価) 入居時に馴染みの関係や場所を利用者や家族から聞いて把握している。日常会話の中で新たに把握した内容は、介護記録の利用者・家族覧に記録し、職員全員で共有している。利用者の希望に応じて、理美容室やスーパー、そうめん流しなどの馴染みの場所へ出かけられるよう支援している。また、家族の協力を得て、お墓参りや自宅に出かけたり、知人や親戚の人などに会いに行けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人の人に付きっきりにならないようにしている。職員が入りながら、利用者同士が上手く関係が築けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、家族からの相談を聞いたり、生活している住居や施設に面会に行き、声掛けや励ましの言葉をかけている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や要望を受け入れた対応をしているが、困難な場合は家族にも協力をお願いしている。 (外部評価) 日頃から時間をかけてゆっくりと利用者の話を聞くよう努めており、職員と1対1となる居室や入浴時などに思いを言われる場合が多く、把握するよう努めている。把握した内容は介護記録の利用者・家族覧に記入し、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。また、内容によっては申し送りノートを活用し、職員全員で確認して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の自宅訪問は、本人家族の生活環境を見せてもらい、利用者の馴染みの関係を築きながら、利用者がやすらかに過ごせるように努めていく。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者のできる事、理解できる事を生活の中で発見していくように努める。日内変動する心身の変化を記録すると共に、スタッフで共有できる場をもつ。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日の申し送り、面会時の家族の意見、日常の本人の生活状態を検討し、本人の意見や家族の意見などを出し合い作成する。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、利用者毎の担当者は利用者の生活や身体状況を把握し、月1回職員会で話し合い介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、3か月に1回担当者会議を実施して見直しを行うなど、現状に即した介護計画を作成している。	利用者の生活に張りが持て、誰が見ても分かりやすくやりがいの持てる介護計画を作成することが望まれる。また、介護記録等からサービスの実施状況が分かりにくいため、分かりやすい様式を工夫して作成し、記録を基にして根拠のあるモニタリングを行うことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人一人の日々の様子を観察し、職員間で利用者の変化する生活を基に自立できるなど喜びに変えるように検討していく。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々々の要望に応じて、その人にふさわしい、ニーズに応じた支援をする。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣の幼、中学校とのつながりや、利用者を支えているボランティア、病院などの把握をし、地域の方の力を借りて取り組みの支援をする。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的を受診し、日頃の様子を主治医に伝えて連携してい る。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診することが できる。定期的な受診は職員が同行し、医師にバイタル チェック表等を見てもらい身体状況を報告している。旧野 村町以外の病院をかかりつけ医にしている利用者には、家 族が受診介助を行い、受診内容は利用者や家族、職員が情 報を共有して、安心して受診できるよう支援している。ま た、利用者の治療がある場合は、協力医である母体診療所 で家族等と話し合い、理解を得て対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職がない為、同じ系列の病院の看護師との連携がと れる体制が確保されている。定期的に看護師の訪問もある ので、近況を報告し、相談、助言をしてもらえる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には毎日様子伺いに行き、病院側と情報交換をしな がら、退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族、医師、看護師、介護士など、関わる全員で病気の説 明や今後の介護、治療などが家族の意向に合うように話し 合っている。 (外部評価) 「認知症対応型共同生活介護に於ける看取りに関する指 針」を作成し、入居時に事業所として対応できる内容を利用 者や家族に説明し、要望に沿った対応をしている。ター ミナルケアが必要になった段階で、急変時にも迅速に対応 できることから、かかりつけ医を母体診療所へ変更しても らい、医師や看護師等の関係者と密に連携しながら、利用 者が安心して最期を迎えられるよう対応している。また、 職員は看取り支援などの外部研修に参加したり、母体診療 所の看護師からアドバイスをもらい、不安解消やサービ スの向上に努めている。また、看取り支援後には職員アン ケートを実施して話し合い、以後の看取り支援に役立てて いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防職員の指導を受け、緊急時、応急手当、初期対応など講習を受けている。施設間の勉強会などで、専門指導者を招き実施指導を受ける。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。運営推進会議で議題に取り上げ意識向上に努めている。 (外部評価) 年2回、夜間の火災を想定した避難訓練を消防署の協力を得て実施しており、アドバイスをもらっている。現在、風水害の対策などの話し合いをしているが、マニュアルの作成までには至っていない。定期的に消火設備を点検したり、緊急連絡網を活用し迅速に正確な情報が伝わるか訓練をしたりするなど、職員の防災意識を高めている。また、お米などの備蓄品を用意し、災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わり方、声のかけ方など、配慮した対応が出来るようにしている。 (外部評価) 職員は周りの利用者に気づかれないようさりげなく声をかけ、誘導してトイレでの排泄支援をしている。また、職員は利用者の嫌がる話題に触れないよう気を配ったり、利用者の話を1対1でゆっくり聞く場合は、他の利用者に聞こえないよう配慮しており、職員により対応が変わらないよう徹底している。利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人にあった声掛けをし、利用者が自分で決める場所を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など、一人一人の思いに配慮しながら、柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院に行かれたり、訪問美容院を利用している。日常衣は自分で選んでもらい、個性を尊重した身だしなみが出来るようにしている。お化粧品をして外出される方もおられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者のリクエストを聞いたり、外食したり、施設の畑で収穫した野菜を使用して、食卓に配膳できる工夫をしている。	
			(外部評価) 栄養士が作成した献立を基本として、専属の調理担当職員が事業所の畑で収穫されたトマトやじゃがいもなどの野菜を使い調理している。日々の会話の中で利用者の好みのメニューを把握し、会議で提案して献立にも反映している。利用者がアレルギーで食べれないメニューの場合には代替の食事を提供したり、利用者の状態に合わせたさざみ食などの食事形態に対応したりしている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、会話を楽しそうにしながら同じ食事をしている。外食を取り入れたりするなど、食事に楽しみが持てるよう支援している。また、利用者は野菜の下準備や食器洗いを一緒に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は記録している。個々の状態に合わせて、トロミ剤使用、ミキサー食、刻み食にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛け対応を行い、能力に応じて職員が行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録をつけ、個々の状態を把握し、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄チェック表を使用して、パターンを把握してトイレでの排泄を支援している。重度化に伴い、ほとんどの利用者が尿取りパッドを使用しているが、早めの声かけをしてトイレに誘導することで失敗する回数が減り、布パンツの使用へ変更した事例もある。24時間オムツを使用している利用者もいるが、ベッド上で交換をしている。また、水分補給や食物繊維を多く摂ることにより便秘対策を行い、自然排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動を働きかけたり、食材を工夫したり水分を多く飲用してもらうようにしている。医師の指示で薬の調整などを個別に行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の順番など希望を聞いては、コミュニケーションを図りながら、ゆっくりと安心した入浴ができるように心掛けている。入浴出来ない時は、清拭、足浴、ドライシャンプーなどを行う。	
			(外部評価) 週2～3回を基本として、利用者は入浴することができる。浴室入口には職員手作りののれんを掛け、利用者一人ひとりに声をかけ、手引きなどの誘導を行い安心して入浴できるよう支援している。利用者と一緒に歌を歌ったり、ゆっくり話を楽しんだりしながら、気持ち良く入浴できるよう努めている。利用者の体調不良で入浴できない場合には、清拭を行い清潔保持をしている。また、入浴を嫌う利用者には、タイミングや声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 安心して休めるように、話を聞いたり、体調に合わせて横になって休息出来るように努めている。室温にも気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 本人と薬袋の確認をし、誤薬や飲み忘れがないように気をつけている。一人一人の使用している薬の内容がわかるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人のできる事、楽しみなど、能力を發揮できるような場面作りや何か役割のある生活が送れるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望やその日の体調、天候に合わせて、ドライブ、外食へ出掛けている。ドライブを兼ねて、自宅見学も行う。	
			(外部評価) 天気の良い日は事業所周辺を散歩している。季節毎に周辺の市町に花見などに出かけている。利用者の希望に応じて、スーパーに買い物や外食に出かけられるよう支援している。また、家族の協力を得て、自宅に帰っている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほぼ全員の方が、お金の管理が出来なくなっている。家族と相談の上、ホームで小遣い程度の金額を施設で預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて、手紙のやり取りや電話が出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花を生けています。壁面は生活感、季節感が感じられるように工夫しています。</p> <p>(外部評価) 調理場からリビング全体を見渡すことができ、利用者の自由に行き来している様子を見ることができる。利用者と一緒に作った朝顔や七夕祭りの飾りつけをしたり、ほおずきを花瓶に入れて飾ったりするなど、利用者が季節感を感じられるようにしている。壁には利用者の行事の写真を飾り、和やかな雰囲気となっている。また、テレビやソファが置いてあり、利用者が落ち着ける場所でゆっくり過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールにはテーブルや椅子を置いて、利用者同士がくつろげるような居場所や環境作りをしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に持ち込まれている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドや布団、クローゼット、エアコンが常備されている。ベッドは利用者の状態に合わせて、介護用のベッドと使い分けて使用している。洗面所とトイレを設置している夫婦等で使用できる2人部屋があるが、現在、利用する希望者がいないため個室として使用している。居室には使い慣れた枕や毛布、テレビ、タンスなどを持ち込み、利用者一人ひとりが落ち着いて過ごせるような空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人一人の能力を見極め、状態に合わせて手すりをつけたり、福祉用具を利用して、少しでも自立した生活が送れるように支援している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400275
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム 竹の園
所在地	愛媛県西予市野村町野村12号106番地
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設近くの土手は利用者や近隣者の散歩コースになっており、田畑の緑にも囲まれた恵まれた環境です。外出を楽しみにしている利用者のため、計画的に食事会やドライブをしています。当グループホームは、医療機関を中心とした多くの介護施設の一部なので、利用者にとって多くの方との出会い、娯楽、リハビリ、教養の機会を持っています。音楽療法などはデイサービスで楽しみ、グループホーム間では相互のレクリエーションで人間関係を作ります。看取り契約者がおられる時には、訪問看護のサービス提供で、介護職員が安心でき、利用者にとっても最後まで穏やかに過ごせる場所となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園に囲まれた事業所の窓からは、旧野村町の見慣れた風景や山々の季節の移り変わりを眺めることができる。事業所の近くには、保育所や児童館、派出所、野村勤労福祉センターなどがあり、静かな環境の中にも生活するには最適の立地である。母体法人は医療機関のほかにも複数の福祉事業所を運営しており、特にデイサービスの広いフロアには各事業所の利用者が集まり、踊りや歌のボランティアの訪問があったり音楽療法を取り入れたりするなど、交流をしながら楽しみのある生活を提供している。管理者は「一人ひとりの思いを大切に笑顔と優しさで寄り添い、できないことにそっと手をさしのべます。」という理念に沿った統一したケアに努めており、職員間のコミュニケーションを大切にして職員が長く勤められるよう働きやすい環境づくりに力を入れて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 竹の園

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 小玉 弘美

評価完了日 26年7月14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎日の申し送りや勉強会などで、理念に触れ、意見の統一を図りながら実践につなげている。	
			(外部評価) 理念は開設時に職員全員で話し合い作成しており、玄関やリビングに掲示して職員間で共有している。利用者との日々の関わりの中で疑問が生じた場合には、理念を基にして勉強会にその疑問を取り上げて職員間で話し合いをしている。また、理念の振り返りを行い、「地域とのつながりを大切にする」という項目を追加するなど見直しを行い、理念に沿ってケアが実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 周囲の地域の方とは、何時も挨拶を欠かさず会話などを行っています。近隣の幼稚園、中学校との交流の機会があります。	
			(外部評価) 散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、野菜のおすそ分けを届けてもらうなど、相互の交流をしている。町内会に加入していないが、市の広報誌が配布され地域行事を把握しお祭りなどに参加している。また、地区の役員さんから奉仕作業や敬老会などへの参加の呼びかけがあり、参加して交流を広めている。中学生の体験学習を受け入れたり、踊りや歌のボランティアの訪問がある。また、近くの幼稚園児の訪問があり、利用者は楽しみにしている。事業所主催の納涼祭を例年開催していたが、参加者が少ないため今年中止となっており、地域住民に事業所に足を運んでもらう理解を得られるような取組みも検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方から認知症の相談を受けている。人材育成のために、実習生やボランティアの受け入れを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 日頃より、学識経験者や地域の有志の方や消防署からも貴重なアドバイス、ご意見を頂き、施設の方向を見直す機会にしています。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、近隣住民、小学校長、消防署長、他の事業所の職員などの参加を得て、法人内の他の事業所と合同で開催している。会議では事業所の報告を行うほか、家族の参加が得られ利用者の様子も分かってもらえるよう、外出行事などと一緒に開催する工夫をしている。また、新しく交番の署員が参加を予定しており、多角的な意見を聞きサービスに反映できることも検討している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 地域包括センター、市役所の生活福祉課との情報交換を行っている。今後とも共同関係ができるように、担当者と会う機会を増やしている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は毎回運営推進会議に参加してもらい、事業所の様子を知ってもらうほか、熱中症や誤嚥、インフルエンザなどの感染症など情報やアドバイスをもらっている。また、介護認定の更新時や質問などがある場合は、市の窓口に出向き相談する良好な関係を築いている。また、地域包括支援センター主催の勉強会に参加したり、入所の問い合わせがあるなど、協力関係ができています。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体的拘束は全く行っていません。そのような環境は作らないようにして、職員が人権侵害の意味を把握し、安全確保に努めています。</p> <p>(外部評価) 職員は身体拘束等の外部研修に参加しており、各ユニットに研修報告を回覧するなど職員全員で情報共有して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出しようとする利用者には職員が付き添い散歩をするなど、見守りながら気分転換してもらっている。ベッドから転倒の恐れのある利用者には、安全面を考え家族の同意を得てベッド柵を使用している。利用者の状況に応じて、止むを得ずユニットの入口を施錠することもある。</p>	「利用者の人権を守る」という基本を認識し、職員全員で身体拘束が利用者にも与える弊害などを話し合い、安全を確保しつつも自由な暮らしを支援する工夫や取組みを行うことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の人権を大切にする事は、職員として当然のことである。虐待につながるような事でも、早く気づき、防止出来るように努め、研修会などに参加し、意識を高めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、知識所得に努力している。現在は制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上、入居されている。契約内容は分かりやすい説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。出された意見はすぐに話し合いを持ち反映させている。	
			(外部評価) 毎月家族に事業所を訪問して直接利用料の支払いをしてもらっており、職員から声をかけ意見や要望を聞くよう努めている。年2回、家族に外出行事に一緒に参加してもらい、利用者や家族から意見を聞く機会として役立てている。また、玄関には意見箱を設置し、苦情申し立て連絡先を掲示するなど、意見を出しやすい工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月1の職員会、主任会、幹部会などの会議があり、その会議内容は職員に伝え、個人的にも施設長との直接面談があり、意見を述べる事ができます。</p> <p>(外部評価) 月1回、法人全体の会議を実施した後に、事業所で職員会を実施している。職員会では利用者の日々のケアを話し合い、職員は行事などのアイデアや意見を施設長に伝えることができる。職員から出された意見には事業所で迅速に対応している。また、事業所に対応できない場合は法人の幹部会に報告し対応している。年1回、施設長は職員との個別面談を設けて相談できる機会を作っているほか、管理者は職員が気軽に相談できる関係づくりに努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の資格所得には代表者が意欲的に勤めている。資格手当、精勤手当、昇給があります。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 県GH研修会、認知症対応の研修会などに積極的に参加しています。昨年度も県GHより、表彰を受けています。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 県、南予地区、市GHに連絡会があり、情報交換をしながら、質の向上に取り組んでいる。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用者の生活リズム、生活習慣をよく把握し、何を必要としているかを知ろうとしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面接時に状況を把握し、家族が何を望んでいるのか、家族の気持ちになって受け止めようとしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い、状況を把握し、改善に向けて家族が納得し、満足できる支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごし、学び支え合う関係であり、人生の先輩として話しを聞く、教えて頂く事を心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との交流の場所として、お花見、納涼祭などを行っている。面会時には、生活の様子を話す機会を持ち、一緒になって利用者を支えていく為に同じ思いで支援していることを伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) スーパー、理美容室、ドライブ、地域の行事などに参加し、継続した支援をしている。 (外部評価) 入居時に馴染みの関係や場所を利用者や家族から聞いて把握している。日常会話の中で新たに把握した内容は、介護記録の利用者・家族覧に記録し、職員全員で共有している。利用者の希望に応じて、理美容室やスーパー、そうめん流しなどの馴染みの場所へ出かけられるよう支援している。また、家族の協力を得て、お墓参りや自宅に出かけたり、知人や親戚の人などに会いに行けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人の人に付きっきりにならないようにしている。職員が入りながら、利用者同士が上手く関係が築けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、家族からの相談を聞いたり、生活している住居や施設に面会に行き、声掛けや励ましの言葉をかけている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や要望を受け入れた対応をしているが、困難な場合は家族にも協力をお願いしている。 (外部評価) 日頃から時間をかけてゆっくりと利用者の話を聞くよう努めており、職員と1対1となる居室や入浴時などに思いを言われる場合が多く、把握するよう努めている。把握した内容は介護記録の利用者・家族覧に記入し、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。また、内容によっては申し送りノートを活用し、職員全員で確認して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の自宅訪問は、本人家族の生活環境を見せてもらい、利用者の馴染みの関係を築きながら、利用者がやすらかに過ごせるように努めていく。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者のできる事、理解できる事を生活の中で発見していくように努める。日内変動する心身の変化を記録すると共に、スタッフで共有できる場をもつ。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日の申し送り、面会時の家族の意見、日常の本人の生活状態を検討し、本人の意見や家族の意見などを出し合い作成する。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、利用者毎の担当者は利用者の生活や身体状況を把握し、月1回職員会で話し合い介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、3か月に1回担当者会議を実施して見直しを行うなど、現状に即した介護計画を作成している。	利用者の生活に張りが持て、誰が見ても分かりやすくやりがいの持てる介護計画を作成することが望まれる。また、介護記録等からサービスの実施状況が分かりにくいため、分かりやすい様式を工夫して作成し、記録を基にして根拠のあるモニタリングを行うことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人一人の日々の様子を観察し、職員間で利用者の変化する生活を基に自立できるなど喜びに変えるように検討していく。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々々の要望に応じて、その人にふさわしい、ニーズに応じた支援をする。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣の幼、中学校とのつながりや、利用者を支えているボランティア、病院などの把握をし、地域の方の力を借りて取り組みの支援をする。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的を受診し、日頃の様子を主治医に伝えて連携している。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診することができる。定期的な受診は職員が同行し、医師にバイタルチェック表等を見てもらい身体状況を報告している。旧野村町以外の病院をかかりつけ医にしている利用者には、家族が受診介助を行い、受診内容は利用者や家族、職員が情報を共有して、安心して受診できるよう支援している。また、利用者の治療がある場合は、協力医である母体診療所で家族等と話し合い、理解を得て対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職がない為、同じ系列の病院の看護師との連携がとれる体制が確保されている。定期的に看護師の訪問もあるので、近況を報告し、相談、助言をしてもらえる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には毎日様子伺いに行き、病院側と情報交換をしながら、退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族、医師、看護師、介護士など、関わる全員で病気の説明や今後の介護、治療などが家族の意向に合うように話し合っている。	
			(外部評価) 「認知症対応型共同生活介護に於ける看取りに関する指針」を作成し、入居時に事業所として対応できる内容を利用者や家族に説明し、要望に沿った対応をしている。ターミナルケアが必要になった段階で、急変時にも迅速に対応できることから、かかりつけ医を母体診療所へ変更してもらい、医師や看護師等の関係者と密に連携しながら、利用者が安心して最期を迎えられるよう対応している。また、職員は看取り支援などの外部研修に参加したり、母体診療所の看護師からアドバイスをもらい、不安解消やサービスの向上に努めている。また、看取り支援後には職員アンケートを実施して話し合い、以後の看取り支援に役立てている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防職員の指導を受け、緊急時、応急手当、初期対応など講習を受けている。施設間の勉強会などで、専門指導者を招き実施指導を受ける。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。運営推進会議で議題に取り上げ意識向上に努めている。	
			(外部評価) 年2回、夜間の火災を想定した避難訓練を消防署の協力を得て実施しており、アドバイスももらっている。現在、風水害の対策などの話し合いをしているが、マニュアルの作成までには至っていない。定期的に消火設備を点検したり、緊急連絡網を活用し迅速に正確な情報が伝わるか訓練をしたりするなど、職員の防災意識を高めている。また、お米などの備蓄品を用意し、災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わり方、声のかけ方など、配慮した対応が出来るようにしている。	
			(外部評価) 職員は周りの利用者に気づかれないようさりげなく声をかけ、誘導してトイレでの排泄支援をしている。また、職員は利用者の嫌がる話題に触れないよう気を配ったり、利用者の話を1対1でゆっくり聞く場合は、他の利用者に聞こえないよう配慮しており、職員により対応が変わらないよう徹底している。利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人にあった声掛けをし、利用者が自分で決める場所を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など、一人一人の思いに配慮しながら、柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院に行かれたり、訪問美容院を利用している。日常衣は自分で選んでもらい、個性を尊重した身だしなみが出来るようにしている。お化粧品をして外出される方もおられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者のリクエストを聞いたり、外食したり、施設の畑で収穫した野菜を使用して、食卓に配膳できる工夫をしている。	
			(外部評価) 栄養士が作成した献立を基本として、専属の調理担当職員が事業所の畑で収穫されたトマトやじゃがいもなどの野菜を使い調理している。日々の会話の中で利用者の好みのメニューを把握し、会議で提案して献立にも反映している。利用者がアレルギーで食べれないメニューの場合には代替の食事を提供したり、利用者の状態に合わせたさざみ食などの食事形態に対応したりしている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、会話を楽しそうにしながら同じ食事をしている。外食を取り入れたりするなど、食事に楽しみが持てるよう支援している。また、利用者は野菜の下準備や食器洗いを一緒に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は記録している。個々の状態に合わせて、トロミ剤使用、ミキサー食、刻み食にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛け対応を行い、能力に応じて職員が行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表をつけ、個々の状態を把握し、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄チェック表を使用して、パターンを把握してトイレでの排泄を支援している。重度化に伴い、ほとんどの利用者が尿取りパッドを使用しているが、早めの声かけをしてトイレに誘導することで失敗する回数が減り、布パンツの使用へ変更した事例もある。24時間オムツを使用している利用者もいるが、ベッド上で交換をしている。また、水分補給や食物繊維を多く摂ることにより便秘対策を行い、自然排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動を働きかけたり、食材を工夫したり水分を多く飲用してもらうようにしている。医師の指示で薬の調整などを個別に行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の順番など希望を聞いては、コミュニケーションを図りながら、ゆっくりと安心した入浴ができるように心掛けている。入浴出来ない時は、清拭、足浴、ドライシャンプーなどを行う。	
			(外部評価) 週2～3回を基本として、利用者は入浴することができる。浴室入口には職員手作りののれんを掛け、利用者一人ひとりに声をかけ、手引きなどの誘導を行い安心して入浴できるよう支援している。利用者と一緒に歌を歌ったり、ゆっくり話を楽しんだりしながら、気持ち良く入浴できるよう努めている。利用者の体調不良で入浴できない場合には、清拭を行い清潔保持をしている。また、入浴を嫌う利用者には、タイミングや声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 安心して休めるように、話を聞いたり、体調に合わせて横になって休息出来るように努めている。室温にも気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 本人と薬袋の確認をし、誤薬や飲み忘れがないように気をつけている。一人一人の使用している薬の内容がわかるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人のできる事、楽しみなど、能力を發揮できるような場面作りや何か役割のある生活が送れるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望やその日の体調、天候に合わせて、ドライブ、外食へ出掛けている。ドライブを兼ねて、自宅見学も行う。	
			(外部評価) 天気の良い日は事業所周辺を散歩している。季節毎に周辺の市町に花見などに出かけている。利用者の希望に応じて、スーパーに買い物や外食に出かけられるよう支援している。また、家族の協力を得て、自宅に帰っている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほぼ全員の方が、お金の管理が出来なくなっている。家族と相談の上、ホームで小遣い程度の金額を施設で預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて、手紙のやり取りや電話が出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花を生けています。壁面は生活感、季節感が感じられるように工夫しています。</p> <p>(外部評価) 調理場からリビング全体を見渡すことができ、利用者の自由に行き来している様子を見ることができる。利用者と一緒に作った朝顔や七夕祭りの飾りつけをしたり、ほおずきを花瓶に入れて飾ったりするなど、利用者が季節感を感じられるようにしている。壁には利用者の行事の写真を飾り、和やかな雰囲気となっている。また、テレビやソファが置いてあり、利用者が落ち着ける場所でゆっくり過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールにはテーブルや椅子を置いて、利用者同士がくつろげるような居場所や環境作りをしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に持ち込まれている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドや布団、クローゼット、エアコンが常備されている。ベッドは利用者の状態に合わせて、介護用のベッドと使い分けて使用している。洗面所とトイレを設置している夫婦等で使用できる2人部屋があるが、現在、利用する希望者がいないため個室として使用している。居室には使い慣れた枕や毛布、テレビ、タンスなどを持ち込み、利用者一人ひとりが落ち着いて過ごせるような空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人一人の能力を見極め、状態に合わせて手すりをつけたり、福祉用具を利用して、少しでも自立した生活が送れるように支援している。</p>	